尊厳をもってその人らしく生きていく社会を目指して

デイケアニュース vol.02

cover photo : Masami SAITO

- message：近藤 国嗣 第 34 回全国デイ・ケア研究大会 大会長
- gambare Kumamoto：発災半年。熊本地震、JADC の取り組み経過報告
- topics：協会認定管理者ピンバッチ
- join & learn：研修参加レポート
- meet our friend：会員施設紹介 せんだんの丘
- event schedule：平成 28 年度 下半期催事予定一覧
- Pick Up：全国デイ・ケア協会主催シンポジウム

一般社団法人 全国デイ・ケア協会

message

第 34 回全国デイ・ケア研究大会 2016 in 千葉を終えて。

第 34 回全国デイ・ケア研究大会長
近藤 国嗣

平成 28 年 7 月 22、23 日の 2 日間にわたり、“第 34 回全国デイ・ケア研究大会 2016 in 千葉” を開催いたしました。今回の研究大会は、テーマを「活動と参加 - どう評価・計画し、いかに介入するか -」にいたしました。

平成 27 年度の介護報酬改定では「活動」と「参加」に焦点を当てたリハビリテーションの推進が求められており、「心身機能」、「活動」、「参加」の要素をバランスよく働きかける質の高いリハビリテーションの提供が必要となります。そして質の高いリハビリテーションを提供するためには充実したリハビリテーションマネジメントを提供しなければなりません。これまでの漫然とした機能訓練中心の個別リハから、短期、中 - 長期的に活動と参加の目標を明確にした上で結果を出すことが求められております。

そのためには組織としての変革や各職種の専門性及び技量の向上が必要であり、全国の通所リハ事業所におかれましては試行錯誤の日々であったのではないでしょうか。

そういった中で迎える今回の研究大会では、参加者が明日から実践すべき知識と技術を学べる場にしたいと思い、各分野の先駆的立場の講師を 10 名お招きし、ご講演をしていただきました。またリハビリテーション会議の構成職種で参加者を募り、模擬リハビリテーション会議を実施し、生活行為向上リハビリテーションの実践についてのシンポジウムも開催いたしました。どちらも平成 27 年度介護報酬改定後、新たに報酬体系に導入された要素です。特に多くの職種を集めて実施した模擬リハビリテーション会議では、多職種でリハビリテーション会議を実施する大切さについて、改めて実感する場になったのではないかと思います。

また今回はより多くの方にご発表いただき、より多くの情報を発信できるように、一般演題でポスター発表を募集させていただきました。その結果、口述発表 73 演題、ポスター発表 27 演題、合計 100 演題となり多く情報を発信することができました。また参加者に関しましても 847 名の方にご参加いただき、介護報酬改定後、「他の通所リハがどのような取り組みを行っているのか知りたい」という参加者のニーズの高さを実感した次第です。

末筆ではございますが、斉藤正身先生をはじめ理事及び会員の皆様には研究大会の運営に多くのご協力をいただきました。この場を借りて御礼申し上げます。また次回、熊本で会いましょう。

ToPiCs

委員会

JADC の災害時対策委員会設置の方向

平成 28 年度 第 3 回理事会（9 月 22 日）にて、斉藤会長より会員施設への災害支援体制の強化について提案があり、災害対策委員会を設置して支援体制の再構築を進めることとなりました。

理事会では、一時的な避難場所としてデイケアは重要である、被災した施設、事業所の運営を支援するボランティアスタッフが必要ではないかとの意見が聞かれました。そこで、被害が少ない近隣地域から被災した施設・事業所へのボランティアスタッフを派遣する体制作りを目指し、各地域（北海道・東北・関東・北信越・東海・関西・中四国・九州）より委員を募りました。また、派遣するボランティアスタッフに対して万が一の事故への補償について、併せて準備を進めています。
今後、ボランティアへのご協力いただける会員施設を募集する予定です。ご協力の程、よろしくお願いいたします。

協会認定管理者へ

協会ピンバッチを作成しました。

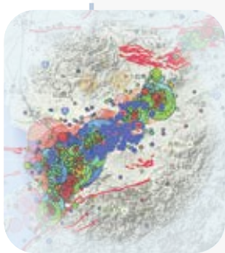
当協会では、研修体制の整備とともに認定のあり方を、平成 25 年度より協会会員「認定制度」を開始しました。認定管理者とは、「通所系サービス（通所介護・通所リハビリ等）における管理者として必要な専門的知識・経験・技術を有する事を認められた者」としました。

認定管理者（個人）の申請資格をクリアし、皆さんも認定管理者を目指してみてはいかがでしょうか。

→ http://www.day-care.jp

平成 28 年熊本地震

発災半年。全国デイ・ケア協会の取り組み



この度の平成 28 年熊本地震に際しましては、全国デイ・ケア協会より多大なご支援をいただき本当にありがとうございました。震源付近の復興は長期戦になりますが、周辺地域では日常を取り戻しつつあります。発災当初は避難者が 18 万人を超えました。仮設住宅への入居が進んでいますが、平成 28 年 8 月現在、約 1,800 名の方がまだ避難生活を強いられています。2 回の震度 7、2,000 回を超す余震に加え、熊本城や阿蘇神社など熊本のシンボルが被害を受け、物理的な被害以上に県民の精神的なダメージは大きいように思います。

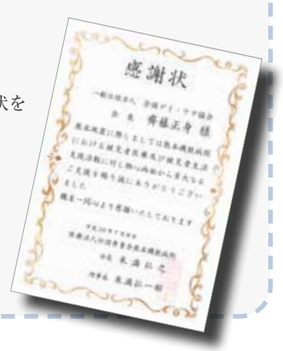
当法人での対応を振り返ると、発災直後は入院、入所者の避難、ご家族への連絡、在宅利用者およびスタッフの安比確認、地域からの避難者への対応に追われました。ライフラインは水道、ガスが止まり、物流が途絶えました。全国デイ・ケア協会からは直ちに支援体制をとっていただき、小倉リハ病院を拠点に、強い余震が続くなか何時間もかけて施設まで物資を運んでいただきました。

また当法人は発災直後より JRAT（大規模災害リハ支援関連団体協議会）の現地拠点の役割も果たしました。7 月の撤退まで約 2,300 名の方の支援をいただき、撤退後の支援体制として熊本県復興リハビリテーションセンターが立ち上がったのをはじめ、地域リハ広域支援センターより身近な機能として以前から企画されていた地域密着リハセンターを創設して、連携をとりつつ復興と介護予防への支援体制が整いつつあります。来年 8 月 4 ～ 5 日の熊本でのデイ・ケア大会は、復興のためにもぜひご参加お願いいたします。

医療法人社団寿量会 熊本機能病院併設　介護老人保健施設 清雅苑　副施設長　野尻 晋一

感謝状

JADC の災害時の活動に対して



平成 28 年熊本地震の支援活動にて、医療法人社団寿量会 熊本機能病院より感謝状をいただきました。

- 被災地の状況に関する情報収集
- 被災地への支援物品の購入、発送（食品・衛生用品等）
- JRAT 本部への協力、支援（人員派遣等）

（JRAT：大規模災害リハビリテーション支援関連団体協議会）

join & learn イベントレポート

当協会では様々な活動を通じデイケアに関わるすべての方々に有益なイベントを開催しています。ともに参加し、学べる場所。そしてなにより同じ志を持った方々との交流の場でもあります。

第 34 回 全国デイケア大会 2016 in 千葉

今後の通所リハビリや地域リハビリテーションの将来を明示。

大会挨拶斉藤 JADC 会長

平成 28 年 7 月 22 日（金）～23 日（土）に東京ベイ幕張を会場に、『第 34 回全国デイ・ケア研究大会 2016 in 千葉』が開催され、盛会のうちに幕を閉じた。テーマを“「活動」と「参加」～どう評価・計画し、いかに介入するか～”とし、様々な専門的な視点から、通所リハビリテーションについて議論され、近藤国嗣大会長（東京湾岸リハビリテーション病院院長）が目指した「活動」と「参加」の実践について“ここに来ればすべきことがわかる”研究大会が具体的に表現されたカリキュラムであった。

大会史上もっとも多い参加者が全国から集まった。

講演は二日間を通して 11 講演。内容はスタンダードなものから先進的なものまで準備され、今後の通所リハに関わる重要な切り口であり、名立たる専門家による内容の濃いカリキュラムであった。また、登録演題数も口述・ポスターを含め、全 100 演題（口述 73 演題・ポスター 23 演題 全 19 セッション）と、非常に多くの実践研究発表がなされ、活発な議論が行われるとともに、随所に参加型のカリキュラムが組み込まれた。

ポスターセッション。

そのなかでもワークショップ形式で開催された“実践！多職種模擬リハビリテーション会議－リハビリテーションマネジメントを効果的に実践するために－”が好評で、会場は満席であった。これは、新たに定められたリハビリテーションマネジメントⅡにおける医師との連携に大きく関わる要件であるにも関わらず、なかなか開催や運営がうまくいっていない現状をうけての企画と言える。

進行は当協会の岡野英樹理事によるファシリテートで進んでいった。実際に、各テーブルには医師はもちろん各職種を配置振り分けして行われ、臨場感あふれる企画だった。実際参加した声も「今までモヤモヤしながら開催していたが、改めて自信が持てた」や「医師と直接話す機会の重要性を再認識できた」など、実務に直結する手応えが聴かれた。

進行の岡野英樹理事（写真上左）。医師役には現任医師が参加し本番さながら（写真上右）。各テーブルの周囲では参加者も見学（写真下左）。会場からの声もダイレクトに（写真下右）。

また、シンポジウムでは、現在最も話題となる「生活行為向上リハビリテーション」をテーマとし、“生活行為向上リハビリテーションの実践－私たちはこうしている－”と銘打ち、座長に当協会の野尻晋一理事、コメンテーターに村井千賀氏（石川県立高松病院）を迎え、先駆的に取り組んでいる二事業所（医療法人真正会デイリハビリテーションセンター 島田達也氏、介護老人保健施設せんだんの丘 二木理恵氏）が報告、会場に詰めかけた参加者と直接議論した。質問の中には「実践すべきと思っているが、なかなか踏み出せない。どうやったら導入できるのか？」といった実務担当者らしい悩みが打ち明けられる場面も見られ、壇上との討論が展開された。

シンポジウムで報告した島田氏（右）と二木氏（左）。

野尻座長と村井コメンテーター。

最後のカリキュラムとして準備されていたのは、当協会の斉藤正身会長と浜村明徳顧問による対談形式での大会統括が行われた。浜村顧問からは普遍的なデイケアの在り方について歴史と共に語られ、斉藤会長からは、熊本地震からの教訓を踏まえ、今後のデイケアの地域での役割に触れ、今後のデイケアが地域で活動を続けることの重要性が示された。

斉藤会長と浜村顧問による対談形式の大会総括。

そして次回開催地の熊本である事が発表され、次期大会長による大会紹介が行われた。熊本地震による影響から開催が危ぶまれる中、“不易流行”をテーマに、まさに現在のデイケアの「不易を知らざれば基立がたく、流行を知らざれば風新たならず」を見つめ直す決意を表した。それは大きな被害をうけ復興を目指す熊本が発信する「暮らすという事」「生きるという事」「支える事」に大きな意味を感じる内容であった。

野尻熊本大会大会長。

今回、参加者合計 847 名の通所リハビリに対する情熱がこの大会のみならず、今後の通所リハビリや地域リハビリテーションの将来を明示した事は間違いない。

Report & Photo : Makoto KATOH

活動と参加してみた!

気づけば冊子がメモだらけ。馬力をいただける大会でした。

みなみの風診療所　作業療法士　下村 美穂

本大会への参加は、仙台、広島に続いて３回目でした。リハビリテーションのあり方そのものが問われる新しい評価体系が通所リハに新設され、１年余りが経過した時期の開催ということもあり、先駆的で本質的な取り組みを学べる場であったと実感しています。日頃整理がつかず散らかっていたものが、棚の中に少しずつ収まっていくような感覚がありました。特に印象に残ったことを少し書かせていただきます。

大会長近藤先生のご講演では、丁寧な機能評価、丁寧な作業工程分析、変化を追える丁寧な仕組みを学びました。キメが荒かった部分が分かりましたので、修正し、精度を上げたいと思います。

シンポジウム“生活行為向上リハビリテーションの実践～私たちはこうしている～”では、通所リハ界を牽引する２事業所の実践報告があり、内部マネジメントに触れられていました。今まさに自事業所で苦戦している部分の手立てが既にあり、気づけば冊子がメモだらけになりました。また、新しい総合事業や地域リハビリテーション活動支援事業について、今年度は自事業所でもそろそろ具体的な一歩をイメージしたいところで、分科会“地域におけるデイ・ケアの活動”に参加できたことは幸運でした。大会から帰るとスタッフに報告。遅ればせながらではありますが、これを機に職場の皆で勉強し、考えていく気運が生まれたことをありがたく思います。

以前の上司の言葉を心に留めて参加しました。学会は「学び」「会う」場。人と出会ってはじめて参加したことになる、というものです。発表後のひと時やレセプション会場では、名刺交換をきっかけにさらに深いところのお話を伺うことができました。

馬力をいただける大会でした。

meet our friend

会員施設 自己紹介

医療法人社団 東北福祉会 せんだんの丘

〒989-3201 宮城県仙台市青葉区国見ヶ丘６丁目 126-51
TEL:022-727-7722（代）FAX:022-727-7727
http://www.bone-info.org/sendannooka/

医療法人社団東北福祉会「介護老人保健施設せんだんの丘」は宮城県仙台市にて、自立支援に向けたリハビリテーション、健康の増進、地域との協働、教育・人材育成の４つを運営方針として入所、居宅サービスを展開しています。当施設は在宅強化型老健として、入所される方々を再び地域での生活が営めるよう「自立支援」を基本にした多職種での支援を行っています。

また、地域に戻った後、その生活が継続できるよう、居宅介護支援事業所、福祉用具貸与・販売事業所、24 時間の訪問看護・介護、通所サービスを行っています。その中で、通所リハビリテーションとせんだんの丘ぷらすについて紹介いたします。通所リハビリテーションは開設時から短時間と１日の利用枠を設け、利用者様の多様なニーズに対応してきました。

「修了」いうことに対しても取り組み続けてきました。これらに対して、施設内でのプログラムだけでは不十分であると感じ、以前から地域に出て、実際の場面を通した評価や支援を大切にしています。利用者さんの自宅を訪問しての環境評価や介助指導、訪問サービスとの連携、自宅近くのスーパーへの買い物評価、公共交通機関の利用、復職支援など様々な場面を経験してきました。これらの取り組みを通して、要介護から要支援になった方の中には、予防通所介護である、せんだんの丘ぷらすへ移行し通所リハビリテーションを終了する方もいます。せんだんの丘ぷらすでは予防通所介護の他、仙台市の通所型予防介護事業の受託や自主グループの起ち上げ、その後の継続フォローなど、より地域での活動を多く実践しています。

そのような活動の中から地域の方と一緒に開催している地域交流祭「いいとも祭り」についてもご紹介します。毎年８月に開催しており、今年、３回目を迎え、無事、盛大に終えることができました。事前の企画･準備、当日の運営、片付け、反省会と職員と地域にお住まいの方がひとつとなって取り組みました。毎回、趣向を凝らし、回数を重ねる毎に内容も規模も充実､拡大しています。これからも、事業所が、そして職員一人ひとりが地域から選ばれるよう、地域での活動や日々の支援を行っていきたいと思っています。

ニュース深層海流

デイケアを取り巻く様々なニュース、その深層にあるもの、流れを見て皆で考えましょう。

6/1 消費税引き上げ先送り

安倍総理は消費税の 10% への引き上げを 2017 年４月からさらに 2019 年 10 月まで先送りすると表明した。この決定には賛同の議論も少なくないが、中長期的には社会保障の抑制、将来世代へのつけ回しの増大、さらに日本の経済財政への深刻な悪影響を来す可能性は否定できない。その翌日に閣議決定された骨太方針 2016 では社会保障費の伸びを年間約 5,000 億円以内とした前年の方針を堅持するとされ、消費税引き上げ延期と相まって今後の社会保障に懸念が残るところである。

7/15「我が事・丸ごと」地域共生社会実現本部 初会合

福祉を高齢者中心から全世代、地域丸ごとへ転換し、地域づくりを住民自身が自分事と考え、共生社会を目指すことなどについて話し合われた。共生社会の実現ということは地域リハの目標のひとつでもあり評価したいが、善意の支え合いが介護保険の補完システムとして制度化される可能性も危惧される。

6月～９月上旬 社会保障審議会介護保険部会が５回開催

６月３日にはロボット技術等を活用した介護業務の効率化や介護職の処遇改善、介護人材の確保などについて審議された。７月 20 日には軽度者への支援のあり方などについて審議された。介護保険における総報酬割りの導入などについてが８月 19 日に、同月 31 日には介護保険サービスにおけるリハ機能の強化について審議された。通所リハと通所介護の特徴が明らかになってきていることを踏まえ、どのように役割分担と機能強化をしていくべきか、などが話し合われたが、このことについては今後の成り行きを注目したい。また介護保険の対象年齢範囲を拡大し、普遍的なものに変えていくべきか否かについても議論された。９月７日の会議ではロボットや ICT を用いた介護の業務改善や介護認定の有効期間など介護認定の見直し、認知症施策の推進などについて審議されている。

8/31 2015 年度の介護給付費実態調査の結果発表

2015 年度に介護サービスを利用した人は 605 万人であり、対前年比で 2.9% の増加であった。この内、通称リハ利用者数は 59 万人で対前年度比 0.8% の増加であった一方、通所介護利用者数は 192 万人であり､前年度比 4.0% の増加であった。

JADC 広報委員 川上 千之

EVENT SCHEDULE 平成 28 年度下半期開催予定

下半期も企画が目白押し。皆様の積極的な参加を心より願っております。詳細は、協会ホームページへ、お問い合わせは、kenshu@day-care.jp まで。

生活行為向上リハ関連

研修会名	開催日	会場	定員
生活行為向上リハビリテーション研修会 in 東京	9/24(土)～25(日)	タイム 24 ビル	100 名
生活行為向上リハフォローアップセミナー in 仙台	11/19(土)～20(日)	ハーネル仙台	100 名
生活行為向上リハフォローアップセミナー in 大阪	H29.1/21(土)～22(日)	CIVI 梅田	100 名
生活行為向上リハフォローアップセミナー in 福岡	H29.2/25(土)～26(日)	福岡センタービル	100 名

全職種

研修会名	開催日	会場
Pick Up! リハビリテーション･ケア合同研究大会　茨城　2016	10/27(木)～29(土)	つくば国際会議場

通所リハビリテーション計画書 立案・実践

研修会名	開催日	会場	定員
通所リハ計画　立案・実践研修会 in 岡山	11/12(土)	ターミナルスクエア 12F	80 名
通所リハ計画　立案・実践研修会 in 東京	12/10(土)	CIVI 秋葉原	80 名
通所リハ計画　立案・実践研修会 in 宮崎	H29.1/28(土)	JA AZM ホール	80 名

通所リハビリテーション 重度者対応

研修会名	開催日	会場	定員
通所リハ 重度者対応研修会 in 福岡	12/3(土)	博多バスターミナル	80 名
通所リハ 重度者対応研修会 in 名古屋	H29.2/18(土)	調整中（名古屋駅近辺）	80 名

認定管理者研修

研修会名	開催日	会場	定員
第４回 デイ・ケア スキルアップセミナー	H29.1 月以降	調整中（東京駅周辺）	100 名

経営・運営

研修会名	開催日	会場	定員
通所リハ 経営運営セミナー（施設見学会あり）	12/2(金)	小倉リハビリテーション病院	60 名
通所リハ 経営運営セミナー	H29.3 月頃	調整中	60 名

Pick Up! 10/27-29 リハビリテーション・ケア合同研究大会 茨城 2016 全国デイ・ケア協会主催シンポジウム

■リハケア茨城大会が“地域包括ケアをあたりまえにしよう！ ～創造・協働・実践‼～”をテーマに開催される。そのリハケア茨城の２日目に開催されるイベントを Pick Up。当協会主催のシンポジウム「地域包括時代に問われるデイ・ケアの役割…未来への役割」が開催される。デイケアは地域包括ケアシステムの要となるべきものである。今回のシンポジウムで地域包括ケア時代におけるデイケアの立ち位置とそこからの新たな眺めが示されることであろう。

○座　長（問題提起）
渡邉要一　医療法人社団永生会法人本部リハビリ統括管理部 部長
○シンポジスト
松永 玄　医療法人社団保健会東京湾岸リハビリテーション病院併設谷津居宅サービスセンター 副主任（理学療法士）
小川 彰　医療法人共和会 伸寿苑デイケアセンター（理学療法士）
袴田真幸　医療法人社団永生会 クリニック ゼロ（0）通所リハ担当（理学療法士）
○指定発言（コメンテーター）
斉藤 正身　一般社団法人 全国デイ・ケア協会 会長（医師）
浜村 明徳　医療法人共和会 小倉リハビリテーション病院 名誉院長（医師）

■生活行為リハフォローアップセミナーが、仙台、大阪、福岡において開催される。2015 年の介護報酬改定で新設された生活行為向上リハ加算は高い報酬にも関わらず、普及には至っていない。この研修会が事業者と利用者の Win-Win の関係を増進する力になることを期待している。

■通所リハ計画立案・実践研修会が、岡山、東京、宮崎で開催される。アセスメントの基本から効果的効率的なリハ計画の作成法などについて研修し、施設運営者には差別化と生き残りの秘策の、そしてスタッフにはステップアップした視点の獲得となるものであろう。

一般社団法人 全国デイ・ケア協会

介護・デイケアサービスの追求

当会の前身である、全国老人デイ・ケア連絡協議会は 1994（平成 6）年、全国のデイケアを提供する施設の有志が集まり、情報の共有化・職員の研修・研鑽の機会提供等を目的とし開設、20 年にわたり活動を続けて参りました。

近年、通所系サービスの役割は急速に高まり、介護予防・認知症疾患・重介護者等、様々な対象者層へのリハ・ケアの提供が求められるようになってきました。

制度的には多くの課題を抱える中、運営の適正化と質の向上、関係機関との連携、住民への啓発等をより公的な立場で取り組んで参ります。地域包括ケアシステムの構築が推進される中、病気や障害のある人たちが尊厳をもってその人らしく生きていくことの出来る社会を目指し、通所系サービスの組織としてその活動に取り組んでいく次第です。

一般社団法人　全国デイ・ケア協会　事務局
住所：〒 350 － 1173 埼玉県川越市安比奈新田 283 － 1 霞ヶ関南病院内
電話：049（237）0700　FAX：049（237）0701
e-mail：info@day-care.jp

協会認定制度のご案内

当協会では、研修体制の整備とともに認定のあり方について検討を重ね、平成 25 年度より協会認定制度を開始しました。通所系サービス（通所介護・通所リハビリ等）の質の向上、利用者の自立支援、地域住民の自助・互助活動への支援を行い、地域リハビリテーションの普及・啓発を促すことを目的に、管理者及び事業所を対象とした協会認定制度を創設いたしました。

認定管理者とは、「通所系サービス（通所介護・通所リハビリ等）における管理者として必要な専門的知識・経験・技術を有することを認められた者」としました。

認定事業所とは、「事業所として満たすべき基準をはじめ、取り組みや特色・方針が認められた施設」としました。

詳細は、http://www.day-care.jp/image/nintei.pdf でご確認ください。

http://www.day-care.jp

編集後記

創刊号から Vol.2 の発刊まで日が無い中、要領を得始めた各人の動きが迅速で、全国大会を挟みつつも、粛々と作成は続いておりました。私はと言えば、プレスの札を下げ、カメラを手に各会場を巡り、様々な場面を記録いたしました。真剣な参加者の姿や、講師・シンポジストの様子など、今でも見返すと緊張感が舞い戻ってくるようです。今回 Vol.2 に掲載させていただいた写真は、極々一部です。本当はもっともっと見ていただきたいものもたくさんありましたし、とてもお見せできないようなものも（笑）。

撮影をしていますと、客観的な気持ちになることがあります。レンズの向こうの盛り上がっている様子をどうにか切り取ろうとする時に、明るさはどうか？ 絞りはどうか？ 感度はどうか？ とあれこれ思案し表現しようとします。まるでアセスメントしているような気持ちになりましたが、感じたことを確認し、それを誰にどう伝えたいのかを決めて、どんな技術を用いるかを考える点では、まさにマネジメントプロセスの基本と変わらないのかもしれませんね。

今大会に参加くださった方々の熱意を冷静に拝見しましたが、それも多くの人達に伝えることについては大変熱意を刺激される号でありました。

全国デイ・ケア協会　広報委員会委員長 加藤 誠

デイケアニュース 02号　2016年10月発行　編集／発行 全国デイ・ケア協会 広報委員会